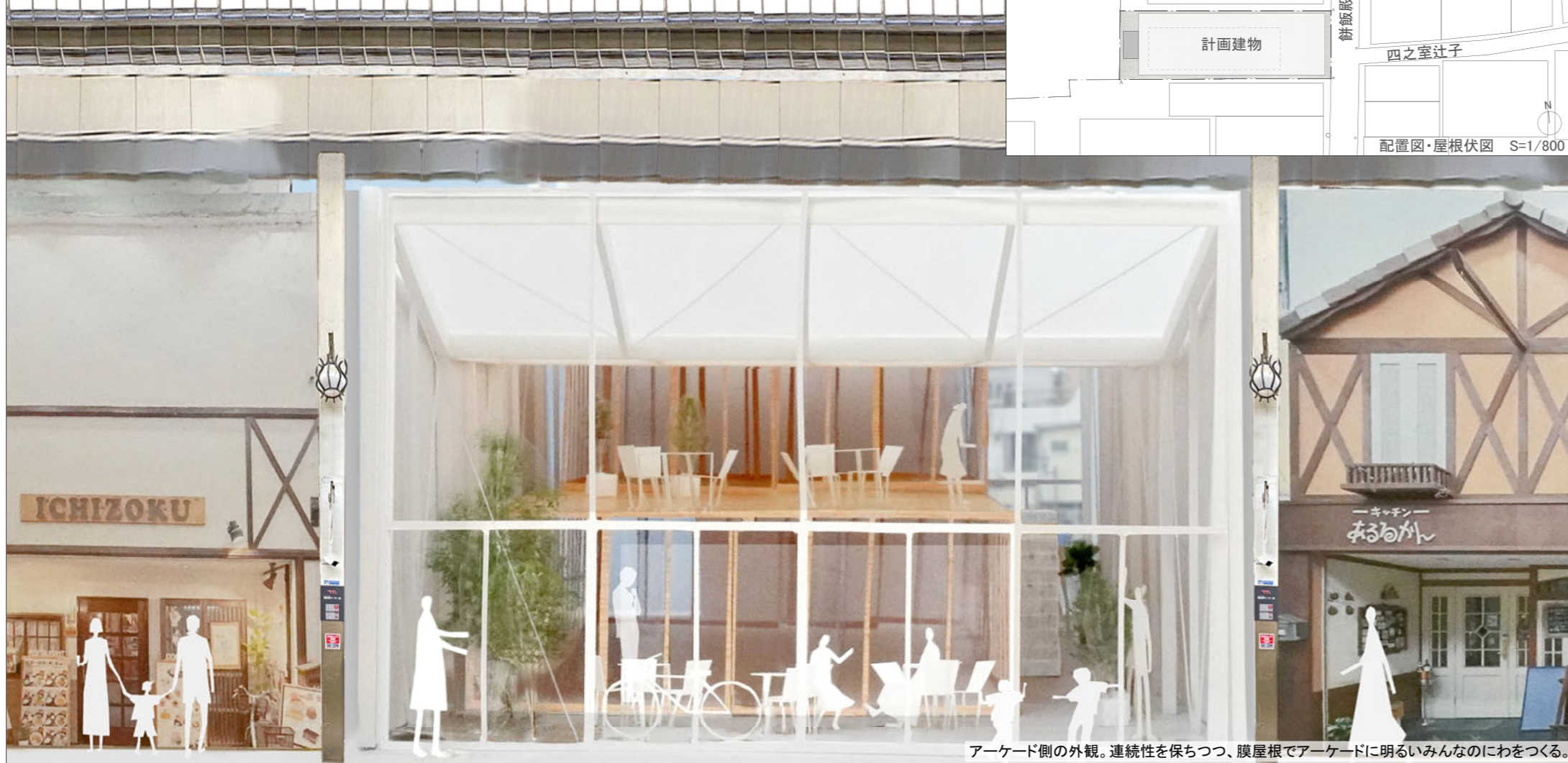


アーケードにみんなのにわをつくる

～奈良まちどのセンター街 コンペティション2025「餅飯殿NEXT+」



アーケード側の外観。連続性を保ちつつ、膜屋根でアーケードに明るいみんなのにわをつくる。

1. 餅飯殿の歴史・アーケードの体験

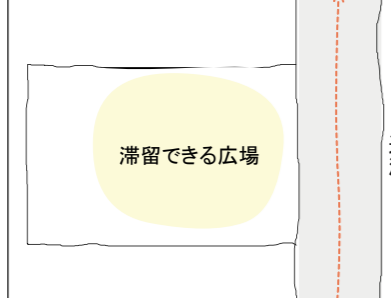
餅飯殿センター街と四之室辻子の交点に位置する敷地は、地域エリアをつなぐ拠点になります。



お互いが手を伸ばせば届くくらいの親密な通りの幅は、商店街の人々が積み重ねた歴史をアーケードを歩きながら通り抜けていくような体験です。

2. アーケードのにわをつくる

アーケードを歩く体験とは異なる空地のような場所を積極的につくります



訪れた人々だれもが気軽にとどまれる広場とし、アーケードの空間体験と異なる場所があることで、お互いの魅力を高め合います。

3. 外側の殿と内側の宝

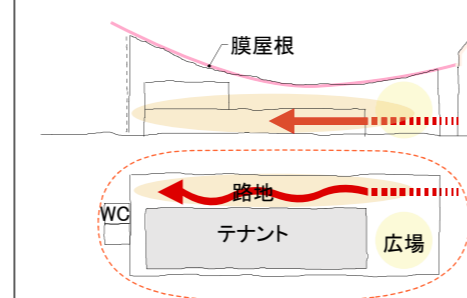
大きな外側の構造によって「殿」をつくり、内部に、人々がわくわくするような、餅飯殿の未来の「宝」となる店舗が入ります。



東大寺の大仏殿のような入れ子の構成で土地にねざした空間性を継承しながら新しい場所をつくります。

4. 特徴的な屋根に覆われたにわ

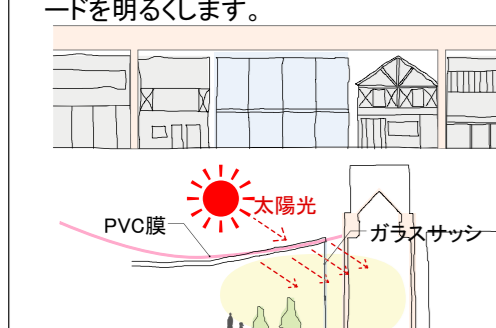
アーケードからつながる高さの変わる反り屋根によって、人々を敷地の奥へいざないます



屋根は光を通す膜として、人々が気軽にぶらぶらしたり、休憩したり、イベント会場にもなる明るい広場と路地をつくりだします。

5. アーケードの連続性を維持する

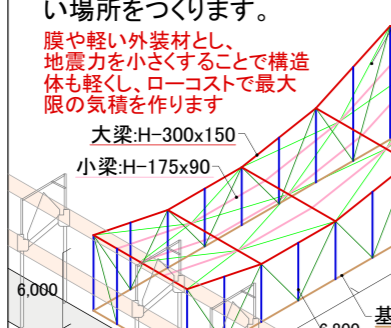
ガラスサッシによってファサードを作ること、アーケードの立面のリズムを残しつつ膜屋根による拡散効果と合わせてアーケードを明るくします。



透明感のある立面で圧迫感のないかたちで町並みをつくります。

6. 透明な外部の構造: 大きな殿の空間

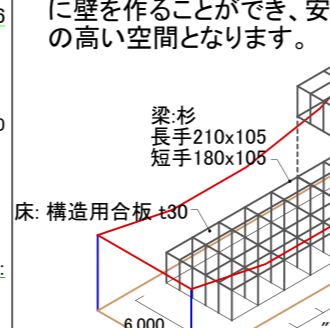
アーケードと呼応するような、土木的なスケールで「殿」の空間をつくります。建築的に意識されないような、透明で明るい場所をつくります。



外周を覆うことで、内部を簡易につくります。

7. 軽やかな内部の構造: 小さな宝の空間

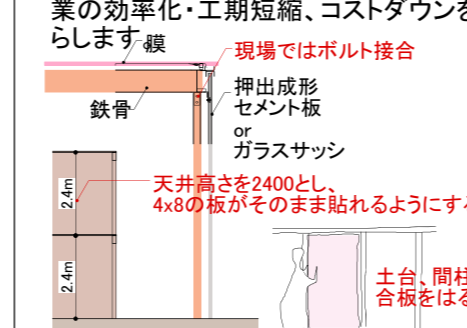
内部のテナント空間は、木で作る規格化された単純な空間です。家具のようなボリュームで、テナント側が工事に入る際も簡単に壁を作ることができ、安価でかつ自由度の高い空間となります。



1.2x2.4m(4x8板)で構成される空間。外周の構造体と切り離すことで簡易な造作にでき、B工事で壁の設置が簡単です。

8. 簡単につくる

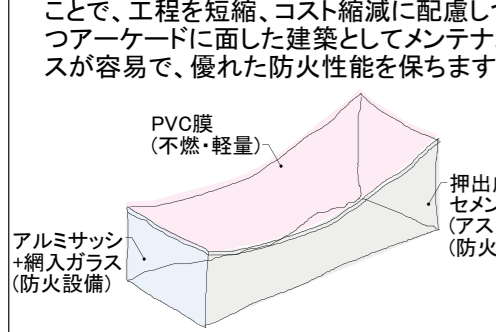
外部構造は、構造材、仕上材ともに工場制作し、現場作業を極力減らします。仕上材料の種類を減らし、工種を削減します。作業の効率化・工期短縮、コストダウンをもたらします。



内部構造は、一般流通木材を、規格寸法でそのまま使うことで簡単に作ったり改修したりすることができ、家具のように取り扱うことができます。

9. 仕上げと素材

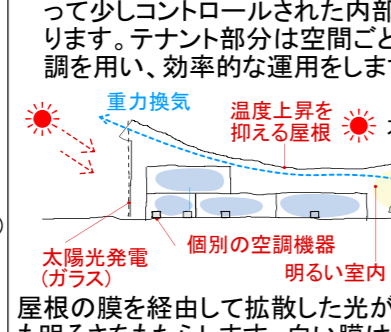
屋根はPVCの膜、南北外壁は押出成形セメント板を用い、外装材が内装仕上げを兼ねることで、下地材を減らし、工種を減らすことで、工程を短縮、コスト縮減に配慮しつつアーケードに優れた建築としてメンテナンスが容易で、優れた防火性能を保ちます。



内部の木構造は、外側の「殿」を作ること、簡易な家具のような工事とし、床などの仕上げ面には地元産の吉野杉を用いることを検討します。

10. おおきな環境をつくる

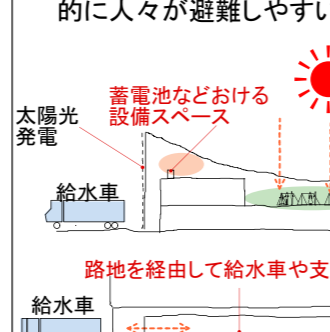
「殿」は、空調を用いず、高窓やアーケード側のサッシを開け放つことで空気の流れを作り出し、高さを活かした重力差換気によって少しコントロールされた内部空間をつくります。テナント部分は空間ごとの個別空調を用い、効率的な運用をします。



屋根の膜を経由して拡散した光がアーケードにも明るさをもたらします。白い膜は日射反射率が高く、屋根表面温度が金属屋根よりも低くなるため、室内外の温度上昇を抑えます。西側のガラスに太陽光発電を組み込むことを検討します。

11. 震災時のよりどころとなる場所

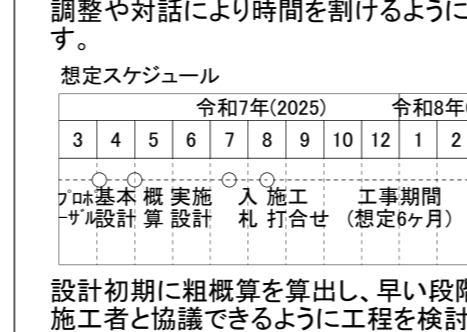
建物は軽量で地震に強く、安全なつくりとします。膜屋根の下は照明がなくとも明るく、雨風がしのげる屋内広場として、明瞭に人々が避難しやすい場所となります



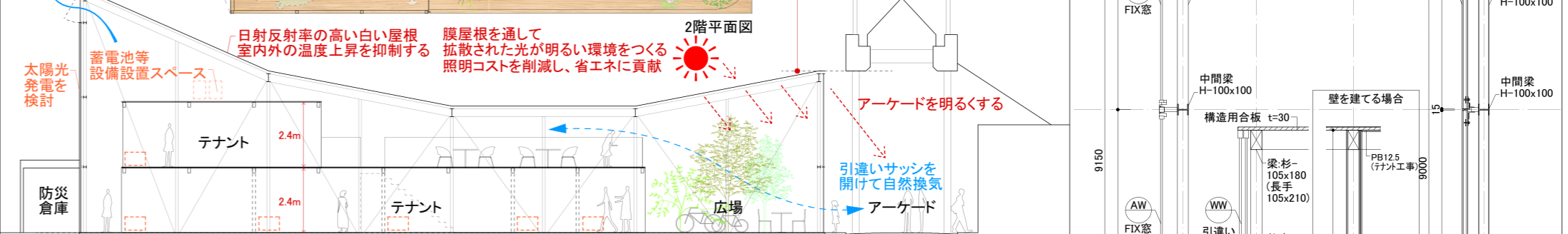
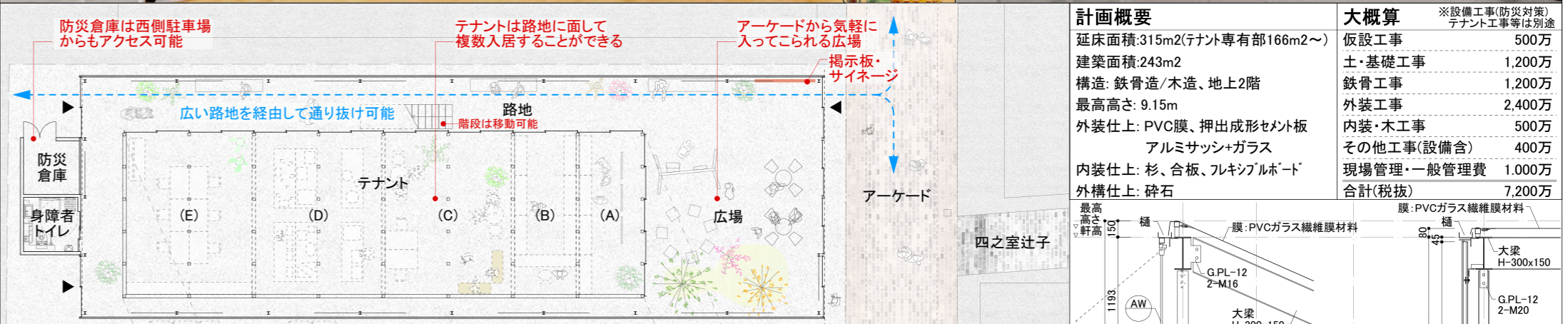
トイレの汲み取りも可能 一時避難 炊き出しが可能な広場

12. 工程計画・コスト計画

工種を減らし、現場作業を削減することで工事をスムーズに終わらせることを想定しています。それによって設計期間を短縮し調整や対話により時間を割けるようになります。



設計初期に粗概算を算出し、早い段階で施工者と協議できるように工程を検討しています。影響が大きい要素(階高、面積など)を重点的に、仕様決定とコスト管理を連動させ、物価上昇を見据えた計画で安定したコスト管理を実現します。



計画概要		概算	
延床面積: 315m ² (テナント専用部 166m ²)	仮設工事	500万	
建築面積: 243m ²	土・基礎工事	1,200万	
構造: 鉄骨造/木造、地上2階	鉄骨工事	1,200万	
最高高さ: 9.15m	外装工事	2,400万	
外装仕上: PVC膜、押出成形セメント板	内装・木工事	500万	
内装仕上: アルミサッシ+ガラス	その他工事(設備含)	400万	
外構仕上: 砂、石、コンクリート	現場管理・一般管理費	1,000万	
外構仕上: 砂、石	合計(税抜)	7,200万	